

## カンデサルタン錠2mg「JG」の安定性試験(無包装)

### 1.試験目的

カンデサルタン錠2mg「JG」を無包装状態で下記条件にて保存し、安定性を確認した。

### 2.保存条件

- ・ 温度に対する安定性試験:40±2℃ 3ヵ月 遮光・気密容器
- ・ 湿度に対する安定性試験:25±2℃/75±5%RH 3ヵ月 遮光・開放容器
- ・ 光に対する安定性試験:120万lx・hr 開放・シャールレ

### 3.試験項目

性状、含量、溶出性、純度試験、硬度<参考値>

### 4. 評価方法

「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(平成11年8月20日(社)日本病院薬剤師会学術第5小委員会)の評価分類基準に準じる。<安定性の評価基準の項参照>

### 5.試験結果

		規格	試験開始時	3ヵ月後
温度	性状	白色～帯黄白色の素錠	適合	適合
	含量(%)	表示量の95.0～105.0%	100.46	99.57
		[開始時100%]	[100]	[99.11]
	溶出性(%)	45分75%以上	96.0-98.5	89.4-93.9
	純度試験	※	適合	適合
	硬度(N)	<参考値>	68	75
		評価	—	◎
湿度	性状	白色～帯黄白色の素錠	適合	適合
	含量(%)	表示量の95.0～105.0%	100.46	101.03
		[開始時100%]	[100]	[100.57]
	溶出性(%)	45分75%以上	96.0-98.5	89.0-90.0
	純度試験	※	適合	適合
	硬度(N)	<参考値>	68	37
		評価	—	○
		規格	試験開始時	曝光(120万lx・hr)
光	性状	白色～帯黄白色の素錠	適合	適合
	含量(%)	表示量の95.0～105.0%	100.46	100.56
		[開始時100%]	[100]	[100.10]
	溶出性(%)	45分75%以上	96.0-98.5	92.5-93.9
	純度試験	※	適合	適合
	硬度(N)	<参考値>	68	33
		評価	—	○

溶出性:平均(最小-最大) 硬度:1N≒0.1kgf

※ カンデサルタン シレキセテルに対する相対保持時間約0.5に検出される類縁物質は1.5%以下であり、相対保持時間約0.8、約1.1及び約1.5に検出される類縁物質は0.5%以下であり、相対保持時間約2.0に検出される類縁物質は1.0%以下であり、試料溶液のカンデサルタン シレキセテル及び相対保持時間約0.4及び上記類縁物質以外に検出される個々の類縁物質はそれぞれ0.1%以下である。また類縁物質の総計は4%以下である。

6.結論

湿度及び光条件において、硬度の低下傾向(規格内)が認められた。

安定性の評価基準

安定性の評価は、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」に記載された試験項目毎の評価基準に従って行った。

【性状】

分類	評価基準
変化なし	外観上の変化を、ほとんど認めない場合
変化あり(規格内)	わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合
変化あり(規格外)	形状変化や著しい変化を認め、規格を逸脱している場合

【純度試験・溶出性】

分類	評価基準
変化なし	規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【含量】

分類	評価基準
変化なし	含量低下が3%未満の場合
変化あり(規格内)	含量低下が3%以上で、規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【硬度】

分類	評価基準
変化なし	硬度変化が30%未満の場合
変化あり(規格内)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)以上の場合
変化あり(規格外)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)未満の場合

安定性の評価分類

安定性の評価分類は、原則として無包装状態での安定性試験における、保存条件、試験項目および試験結果から、下記の評価分類に従って分類した。

試験結果	評価
測定された全ての試験項目で変化を認めない	◎
いずれかの試験項目で、「規格内」の変化を認める	○
いずれかの試験項目で、「規格外」の変化を認める	△

※平成11年8月20日付「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(日本病院薬剤師会)に準ずる。

2014年12月

002